

1. 授業のねらい・概要

近年、世界中でモノ、カネ、ヒト等が国境を越えて活発に移動するというグローバル化の時代を迎えているが、日本企業の海外進出や訪日観光客の増加等、日本を取り巻く身近な環境でもそのような動きが見られる。他方、世界各国において、グローバル化の負の側面が強調され、それに反抗するかのように、内向き志向の保護主義の動きが台頭してきている事実も無視できない。将来、ビジネス界で活躍すると期待される学生諸君は、このようなトレンドに乗り遅れないように、我々に与えるグローバル化の良い影響と悪い影響について、いずれも冷静に見つめることが求められる。そこで、本講義は、あくまでもその一助として、国際的なビジネス活動に関連性の高いテーマに焦点を絞りつつ、前期Aは、カネの側面からグローバル化の実態を捉える国際金融の基礎知識を学修する。

2. 授業の進め方

学生諸君が興味を持ってくれるような講義とするべく、映像視聴を取り入れたり、担当教員の実務・海外経験を話に交えたりする等の工夫を凝らす。さらに、より主体的な姿勢がより良い理解に繋がるので、日頃から、メディアで世界の経済・社会情勢をフォローしておくことを強く薦める。また、数回、受講生に小課題を課すことで、理解度を確認することとしたい。

3. 授業計画

1. イントロダクション	9. アジア通貨危機の発生と IMF の対応
2. 国際収支と外国為替取引	10. 米国経済と世界的金融危機
3. 経常収支とマクロ経済	11. DVD 視聴（リーマンショックの実態）
4. 為替リスクと為替相場の決定理論	12. 欧州債務危機の発生とその影響
5. 為替介入の仕組みと通貨危機の原因	13. 新興国の台頭と G20 の役割
6. マンデル・フレミング・モデル	14. グローバル化に携わる仕事の紹介（国際機関）
7. 国際通貨体制と通貨統合①（ドル体制と為替制度）	15. 本講義の総括
8. 国際通貨体制と通貨統合②（統一通貨ユーロ）	

4. 到達目標

ビジネス活動に深く関わる国際金融の観点から、グローバル化の実態を体系的に理解することで、それを捉えるための複眼的思考を養うことを目標とする。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

レジュメを当日配布するため、準備学習は不要だが、むしろ、講義内容を振り返りながら、復習を行うことが重要。

6. 成績評価の方法・基準

平常点（30%）及び期末試験（70%）にて、総合的に評価する。

7. テキスト・参考文献

テキストは特に限定しない。毎回の授業時で必要なレジュメを配布する。参考文献は、講義の中で適宜紹介していく。

8. 受講上の留意事項

履修条件は特になし。講義中は、私語は慎み、解説を聞くだけでなく、補足情報もノートすること。平常点が著しく悪い場合は、期末試験を受験できないことがある。また、留学生には、経済学の基礎文献を読める程度の日本語能力が求められる。